John Templeton Foundation 助成

震災後の日本における宗教的ミニストリーの理論と実践 | 第一回シンポジウム

1st. SYMPOSIUM | Science for Ministry in Japan: The Theory and Practice of Christian Ministry in the Face of Natural Disasters

21世紀に甦る賀川豊彦・ハル

2015年3月14日[土] | 午後1時30分–午後5時

明治学院大学 | 白金校舎 | 三号館三二〇三教室

東京都港区
白金台1–2–37

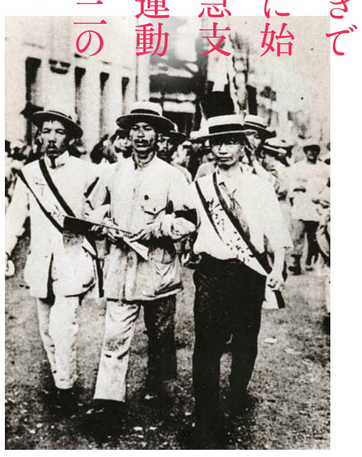
参加費=無料　申込み=Science for Ministry in Japan 専用サイト(下記)から、もしくは直接、共立基督教研究所まで。

共催=東京基督教大学 共立基督教研究所、明治学院大学 キリスト教研究所 賀川豊彦研究プロジェクト

協賛=賀川豊彦記念松沢資料館、キリスト新聞社

評論家・大宅壮一をして「およそ運動と名のつくものの大部分は、賀川豊彦に源を発していると言っても、決して言い過ぎではない」と言わしめた賀川の活動は、神戸スラムでの救貧に始まり、労働運動、消費者組合運動、農民運動、災害緊急支援(関東大震災)、国内外におよぶ広範な伝道活動、平和運動と世界連邦の提唱に及びました。そしてその活動を無二の同労者として主体的に担ったのが、賀川の妻・ハルでした。賀川の思想と活動は世界から賞賛され、ノーベル文学賞に2回、ノーベル平和賞に3回ノミネートされていますが、戦後の日本でその働きは継承されませんでした。しかし世界が大きく転換しつつある現在、賀川の思想と活動が改めて注目されています。今日、その活動を当時の文脈に即して検証しつつ、賀川が生涯を通して取り組んだ課題を継承し発展させる時期に来ているのではないでしょうか。

これからの市民社会における福祉や公共政策には女性の参加が不可欠であるなか、本シンポジウムでは、賀川豊彦・ハル夫妻のパートナーシップをとおして、「21世紀のグランドデザイナー」(阿部志郎氏)とも称される賀川の思想と実践の全体像を、公共哲学・神学の視点から明らかにします。



基調講演

あらゆるものを全体から見る姿勢
「科学的な神秘主義者と芸術家」である
賀川豊彦(一八八八–一九六〇年)
トマス・ヘイスティングス氏
[日本国際基督教大学財団主任研究員、賀川豊彦記念松沢資料館研究員]

パネルディスカッション

賀川の「民主的で平和な日本社会」のヴィジョン
金井新二氏[賀川豊彦記念松沢資料館館長、東京大学名誉教授]

労働組合、協同組合、NPOの連携
篠田徹氏[早稲田大学社会科学総合学術院教授]

豊彦とハルのパートナーシップ
岩田三枝子氏[東京基督教大学神学部専任講師]

コーディネーター=稲垣久和[東京基督教大学大学院教授]

震災後の日本における
宗教的ミニストリーの
理論と実践
Science for Ministry in Japan:
The Theory and Practice of
Christian Ministry in the Face of
Natural Disasters(2014–16)

—

お申し込み

http://www.tci.ac.jp/smj/schedule/から、
または共立基督教研究所まで、1|お名前、
2|ご所属、3|ご連絡先(住所・電話番号)を
明記のうえ、お申込みください。

—

問い合わせ

共立基督教研究所[高橋]
〒270-1347 千葉県印西市内野3-301-5
Tel‖0476-46-1137
Fax‖0476-46-1292
E-mail‖ntaka@tci.ac.jp

—

本プロジェクトは米国のJohn Templeton Foundationの助成を受けて行われます。
本プロジェクトの成果として発表される論文・記事等に表明される主張・見解は、同財団の主張・見解を表すものではありません。
This project was made possible through the support of a grant from the John Templeton Foundation. The opinions expressed in this project are those of the members and do not necessarily reflect the views of the John Templeton Foundation.